

昨年3月完成のJR東佐野駅前ロータリーに「陽光桜」が植樹されました



11月27日(日)午前11時、JR東佐野駅前ロータリーに、愛媛県で25年間育った桜の木(高さ約5メートル、幹回り約1メートル)が植樹されました。

この日はあいにく雨が降りしきるなかでの作業でしたが、ボランティア団体「泉ヶ丘桜会」(会長 辻本 日東 貴さん)が中心となりロータリー中央部に立派な桜がそびえ立ちました。

4年後の春に満開に咲きほこる「駅前桜」を楽しみにしたいと思います。

えきまえさくら ようこうさくら 「駅前桜」=「陽光桜」

戦後、愛媛県で試行錯誤を繰り返し、苦難の末、新たな品種「どんな気候でも花を咲かせ、病気にも強い桜」をつくることに成功し、平成13年に、92歳で亡くなった「知られざる桜の偉人」高岡正明氏の実話。

戦時中、軍国教育を行っていた青年学校での教師だった高岡正明氏は、純粋に日本が勝つと思ひ、生徒に、「日本が勝つんや、正義のため、戦こうて来い。」「帰ったら、この桜の下で写真を撮ろう。」と言って、生徒を戦地に送り出して死なせてしもうたと、戦後、自責の念に苦しみ続けました。

そして、高岡正明氏は「二度とこのような悲惨なことを繰り返してはならない」と、戦死した教え子たちの鎮魂と世界の平和を願い、その子たちの亡くなった異国(寒いシベリアや暑い亜熱帯のインドシナ)でも咲きほこる、新たな桜をつくりました。それが「陽光桜」なのです。

さらに、高岡正明氏はこの桜を世界中に植えようと、苗木を3万本も送り続けたのです。



いづみがおかさくらかい 「泉ヶ丘桜会」植樹計画

— JR東佐野駅前ロータリー植樹の話が出て —

「泉ヶ丘桜会」は、植樹計画が持ち上がってから、長野県、滋賀県、和歌山県、奈良県など20か所の桜の名所を調査し、マキノ高原近くで見た桜が、華やかで、早咲きで、垂れずに上に伸び、花びらがチラチラ散る光景を見て、正にシンボルツリーとしてぴったりの桜に出会いました。

この桜を追跡したところ、愛媛県の「陽光桜」であるとわかりました。そこで、高岡正明氏のご子息である高岡照海氏にお会いし、泉ヶ丘桜会の植樹計画をお話したところ、それは良い話だと言っていたいただき、平成3年に高岡正明氏と照海氏でご自分の畑に植えられた、4本のうちの1本の陽光桜を、このたび泉ヶ丘桜会にお譲りいただけたとのことです。